

★本土大空襲そして原子爆弾！

― 六三年前のこの惨事は避けえなかったか ―

◆まもなく、あの暑い敗戦の日が近づいて来ます。本土を守る捨て石とされ、約十万人の死者を出した沖縄は六月二五日完全に壊滅、本土爆撃が始まりました。

◆左上の写真は、約百回にわたる東京空襲のうち、約十万人の死者を出した六月三日の大空襲直後の、路上に転がる子供と嬰兒の黒こげの焼死体です。浜松も六月十八日の大空襲で焦土と化し、千七百人の死者を出しました。

●東京大空襲の直後、路上に転がる子供の焼死体

●瓦礫と化した浜松市。遠くに旧松菱デパートがぽつんと見えます。



◆七月二十六日、連合国は、日本の無条件降伏を求めたポツダム宣言を発表しました。しかし日本は、国民の命より国体の護持（＝天皇制の維持）にこだわり、これを無視しました。

◆八月六日広島に、同九日長崎に原始爆弾が落とされ、合わせて十八万人が亡くなりました。ポツダム宣言さえ受けいれていたら避けえた犠牲でした。

★敗戦そして平和憲法が生まれた！

◆この犠牲の上に戦争をしない国際公約、平和憲法が誕生しました。平和憲法はこの過ちを繰り返さない防波堤です。平和憲法を守って平和を創りましょう！

― 歩き続けて四一年 ―

二〇〇八年七月十三日（日）

第四九七回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進

毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

二〇〇八年七月十三日 街頭アツピール

ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちわ！。こちらは歩き続けて四一年、浜松市憲法を守る会の第四百九十七回目の護憲平和行進です。

皆さん、間もなく、六三年前のあの暑い八月十五日、太平洋戦争の敗戦の日が近づいてきます。

四月一日沖縄に上陸を開始した米軍は六月二十五日完全に全島を制覇しました。その間、日本本土も大空襲の嵐に巻き込まれてゆきました。

今、お配りのビラをご覧ください。十万人の死者を出した六月三日の東京大空襲。その直後の写真です。路上に子供と嬰兒の黒こげの死体が転がっている目を覆いたくなるような痛ましい写真です。このような光景が至るところで見られたといえます。

浜松も六月十八日大空襲に見舞われ、街は写真のような焦土と化し、千七百人の人が亡くなりました。

連合国は、七月二十六日、ここまで壊滅的打撃を受けた日本はもう降伏するだろうと思い、日本に無条件降伏をもとめるポツダム宣言を発表しました。

ところが、日本は国体の護持すなわち天皇制の存続にこだわって、それを無視しました。この時、国民の命を第一に考えて、ポツダム宣言をうけていたら、その後の何十万という犠牲は払わずに済んだはずでした。

そして、八月六日広島に、同九日に長崎に原子爆弾が落とされ、両市合わせて十八万人が犠牲者となりました。

本当に地獄絵のような悲惨な戦争でした。

みなさん、この光景は、もう未来には起きない歴史の一コマなのでしょいか。

そうありたい、そうでなければならぬと願い、戦後日本国民は新しい憲法をつくり、第九条で戦争を完全に放棄し、武力も棄てたのです。

私たちは、特に若者のみなさんに特に訴えます。もし憲法が改悪されて再び戦争のできる国になったら、真っ先に戦場に行くのは、若者のみなさん、あなたです。

そして残された家族は、このような光景になるのです。

そんなことにならないよう、末永くこの平和憲法を守って行きましょう！

(もとに戻る)

